

高温少雨のため草勢が悪く、黄化した株も多数見られた。ハマゴウの下で生育していたウンランの株は高温少雨の影響が少なく、9月12日時点では生育が良好であったが、10月11日にはほとんどの株が黄化した。11月25日にはハマゴウが落葉し、秋以降再出芽したウンラン株が見られた。1月17日にはほとんどの株の地上部が枯死した。

7 保護区以外の状況

(1) ナミキソウ自生地

4月12日に発芽した株が確認され、6月1日に開花が見られた。8月4日には高温少雨の影響により一部の株で黄化が見られた。11月25日にはほとんどの株が黄化し、12月13日にはほとんどの株の地上部が枯死した。

(2) デンジソウ自生地

5月12日に発芽後の生育株を確認。6月15日以降は生育旺盛となるが、11月25日には気温の低下によって

葉が茶褐色となり、1月17日には地上部が枯死した。

(3) ミズキンバイ自生地

4月27日にアシが発芽し始める中、ミズキンバイの出芽が見られた。9月19日に最接近した台風14号の影響により、9月21日にはアシは倒れ、地上部が枯死していたが、その下の水面でミズキンバイが見られた。11月17日には水位が下がり、アシの株元で伸長したミズキンバイが見られた。

(4) ミズスギナ自生地

10月21日に自生する3か所の池の状況を確認。A池は池の周囲の岸近くに多く群生していたが、B池所は2018年の調査時よりミズスギナの生育部分が減少していた。C池は2018年の西日本豪雨以降、2019年に少数の株が確認されたが、今回ミズスギナは確認されなかった。11月26日B池においてに池の日照の改善を目的に生育部分が減少した池の提及び周辺の除草を行った。

令和4年度ニホンカワウソ無人カメラ調査

生物多様性センター

国の特別天然記念物であり、本県の県獣に指定されているニホンカワウソは1975年に宇和島市九島で捕獲された個体以降、確実な生存情報はなく、愛媛県レッドデータ

ブック(2014年改訂)では絶滅危惧1類と評価されている。なお、環境省はニホンカワウソを絶滅種として判断しているが、愛媛県生物多様性センターでは2012年以降、センサーカメラを設置し、撮影データの確認を継続している。令和4年度、ニホンカワウソもしくはニホンカワウソの可能性のある哺乳類は撮影されなかった。

令和4年度 ニホンカワウソ無人カメラ撮影状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日

カメラ ナンバー	場 所	確認された哺乳類		確認された鳥類	
		種数	種数	種数	種数
1	宇和島市(半島の道路近くの水路)	ハクビシン、イノシシ タヌキ、ネズミ、イタチ	5	ヤマドリ、不明	2
2	宇和島市(半島の廃集落の水路)	ハクビシン、イタチ タヌキ、ネズミ	4	ハシブトガラス アオサギ、メジロヒヨドリ、ウグイス キジバト、不明	7

令和4年度特定外来生物等対応状況

生物多様性センター

生物多様性センターでは第2次生物多様性えひめ戦略に基づき、外来生物対策の推進を図っており、外来種に係る情報収集と対応を業務の一環として実施していることから、令和4年度の対応状況と今後の対応について特

定外来生物を中心に報告する。

哺乳類・鳥類1件、爬虫・両生類5件、魚類・甲殻類2件、昆虫・クモ類17件、植物3件の情報提供があり対応した。中予地域からヌートリアの確認情報があり、無人カメラと箱わなの設置を実施したが、確実な情報は得られなかった。

1 アライグマ

令和4年度の見撃・捕獲等情報は無かった。平成30

年度にアライグマの生息が確認された松山市と松前町において痕跡調査を継続しているが、アライグマの特徴を有する痕跡は確認されていない。

2 ゴケグモ類(セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ)

6月に八幡浜市内でセアカゴケグモ1頭が初確認され、周辺調査を実施したが追加の成体や卵嚢は確認されていない。令和元年に複数の個体が確認された新居浜市と

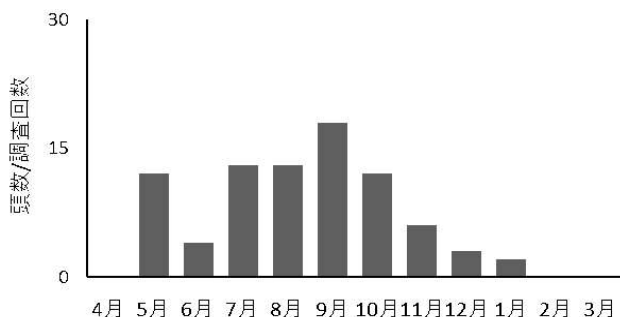


図1 新居浜市セアカゴケグモ確認状況(令和4年度)

松山市では定期的なモニタリング調査を継続している。新居浜市では11回の調査で83頭のセアカゴケグモが確認された(図1)。松山市では12回の調査を実施し、周辺の公園で新たに確認されたことから市関係部署が注意喚起を行った。令和3年に複数の個体が確認された今治市では市職員を対象とした研修会を2回実施した。

3 ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ)

新居浜市の港湾を中心に2回/年の頻度でモニタリング調査を実施した。確認されたアリ類はオオズアリ属1,110頭、シワアリ属210頭、シリアゲアリ属1頭、ルリアリ属3頭であり、ヒアリ・アカカミアリは確認されていない。その他海外航路を有する港湾(松山、今治、川之江)は、環境省委託によるモニタリング調査が継続されている。本種の主な侵入ルートは海外航路のコンテナであり、愛媛県でも侵入の可能性は常に存在していることから、今後も警戒を続けていく必要がある。

4 外来カメ類

4月に新居浜市において令和3年6月に捕獲された同地域でカミツキガメ1頭が捕獲され、周辺調査を実施したが追加個体の痕跡は確認されなかった。複数個体が確認された今治市伯方町において同市と共同で調査を継続している。令和4年度は延べ70基のカゴわなを設置したがカミツキガメは捕獲されなかった(表1)。8月に住民からの通報により幼体1頭を確保した。

表1 カミツキガメ捕獲調査実績(令和4年度)

調査月日	方法	設置数	捕獲頭数
6月3日	カゴわな	20	0
7月14日	カゴわな	20	0
8月9日	その他	-	1
8月24日	カゴわな	10	0
10月7日	カゴわな	20	0

令和4年度生物季節観測

生物多様性センター
気候変動適応センター

気候変動をはじめ様々な環境変化が動植物に与える影響を評価するために、生物を指標とした生物季節観測を気候変動適応センターと生物多様性センターが主体となって実施し、関係機関と連携した気候変動解析の基礎データとして活用する。

生物季節観測結果(令和4年)

対象種	調査項目	令和4年(2022年)	調査地点	3次メッシュコード(世界測地系)	平年値(直近10か年)気象台公表データから算出	備考
ツバキ	開花日	-	定点(とべ動物園)	50325613	12月16日	
ヒガンバナ	開花日	9月14日	定点(東温市見奈良)	50325750	-	県内平年値無し
モズ	初鳴日	9月17日	松山市周辺		9月20日	野鳥の会愛媛
ヒバリ	初鳴日	-	保留		2月2日	
ウグイス	初鳴日	-	定点(東温市見奈良)	50325750	3月4日	
ツバメ	初見日	3月8日	松山市周辺		3月23日	野鳥の会愛媛
シオカラトンボ	初見日	5月25日	定点(東温市見奈良)	50325750	5月17日	
アブラゼミ	初鳴日	7月11日	定点(東温市見奈良)	50325750	7月12日	
ヒグラシ	初鳴日	-	定点(久万高原町)		7月29日	
モンシロチョウ	初見日	-	定点(東温市見奈良)	50325750	3月10日	
キアゲハ	初見日	-	-		算出不能	近年、春型の確認が少ない
ホタル(ゲンジボタル)	初見日	-	保留		5月17日	